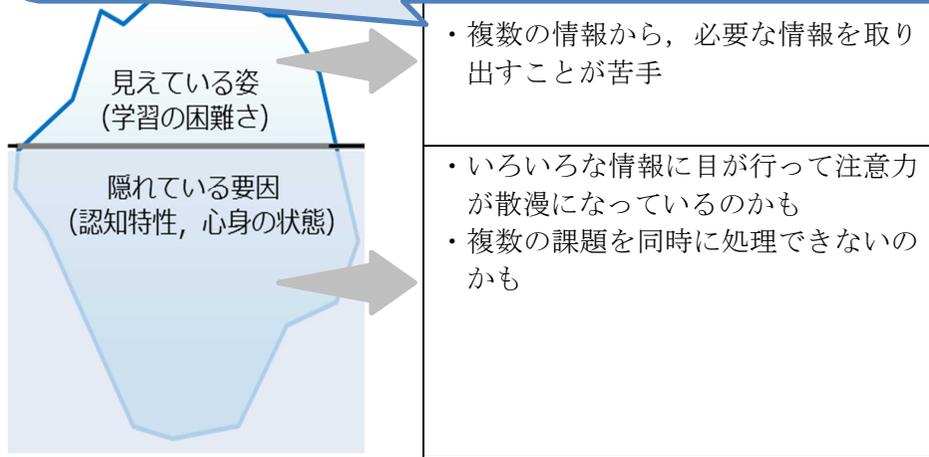


【学級担任や学年所属の教師，特別支援教育コーディネーターなど，複数の教師で検討して記入します】

普段の授業の様子や「特別な教育的支援を必要とする児童生徒のチェックリスト」などで確認した生徒の学習の困難さや背景要因について検討し，記入します。背景要因を検討することで，生徒の優位な認知特性（強み）を見付けることもできます。



【全教科で共通して行う配慮や支援の具体的な手立て】

- ・定期考査の問題用紙はA3に拡大して配付する
- ・学習課題を取り組んでいるときに全教科持ち歩く
- ・課題

【学級担任や学年所属の教師，特別支援教育コーディネーターなどで検討して記入します】

生徒の学習の困難さや背景要因から，全教科で共通して行う配慮や支援について学年で検討し，記入します。特に定期考査や授業内の小テストなど，評価に関する配慮や支援は確実に検討し，記入するようにしてください。

また，小学校での配慮や支援の内容がある場合は記入するようにしてください。

【小学校で】

- ・座席
- ・1回の指示に1つの内容で伝えるようにしている
- ・戸棚の窓にラシャ紙を貼って中を見えなくする

既に個別の指導計画の様式がある場合は，個別の指導計画作成時に，「個別の配慮・支援シート」で参考になりそうな項目を活用してください。

【1学期】

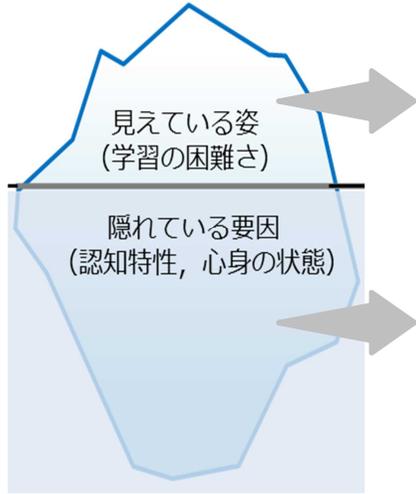
教科	担当者			
国語				
社会		○主な地図記号を覚えることができる ▲地形図の中の地図記号を見付けることができない	課題の解決に必要な地図記号をあらかじめ赤ペンで囲んだ状態の地形図を配付する	△資料を拡大して渡す
数学		○簡単な計算はできる ▲文字式や方程式など移項を伴う計算ができない	移項を伴う計算をする際には，矢印や必要な言葉を添えた例題を準備する	◎関数でも同じようにする
理科				
音楽				
美術				
保体				
技家		○いちょう切りや千切りなど調理の技能は身に付いている ▲調理の手順が分からない	調理の手順を書いたプリントに写真も加えて視覚化，スモールステップ化する	◎裁縫の実習でも同様にする
英語				

【教科担任や特別支援教育コーディネーターが授業の様子を観察し，必要に応じて記入します】

全ての教科で記入するのではなく，指導内容や指導方法に配慮や支援が必要な教科について記入します。
最初は支援が必要ないと感じた教科でも，学期途中や2学期になってから配慮や支援が必要となれば，記入するようにしてください。

年 組 生徒氏名：	担任：
-----------	-----

【生徒の学習の困難さと背景要因】



<ul style="list-style-type: none"> • • •
<ul style="list-style-type: none"> • • •

【全教科で共通して行う配慮や支援の具体的な手立て】

<ul style="list-style-type: none"> • • •

【小学校で行っていた配慮や支援, 引継ぎ事項など】

<ul style="list-style-type: none"> • • •

【1学期】

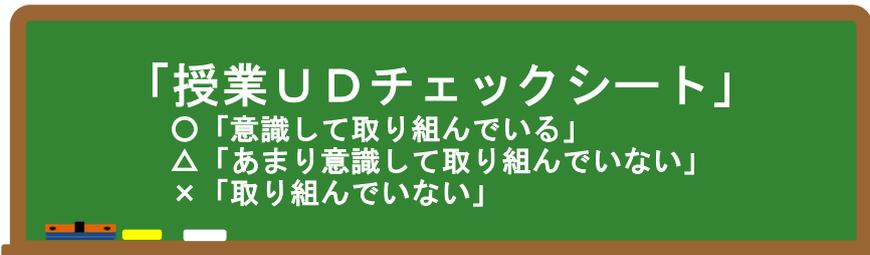
教科	担当者	授業での実態 【できている : ○】 【できていない : ▲】	実施する配慮や支援の 具体的な手立て	手立ての 有効性 ◎・△
国語				
社会				
数学				
理科				
音楽				
美術				
保体				
技家				
英語				

【2学期】

教科	担当者	授業での実態 【できている : ○】 【できていない : ▲】	実施する配慮や支援の 具体的な手立て	手立ての 有効性 ◎・△
国語				
社会				
数学				
理科				
音楽				
美術				
保体				
技家				
英語				

【3学期】

教科	担当者	授業での実態 【できている : ○】 【できていない : ▲】	実施する配慮や支援の 具体的な手立て	手立ての 有効性 ◎・△
国語				
社会				
数学				
理科				
音楽				
美術				
保体				
技家				
英語				



	チェックポイント	チェック欄
授業を支える環境づくり	互いに認め合える集団づくりを行っている 例：みやぎアドベンチャープログラム、構成的グループエンカウンター、ブレイクアウト・ミーティングなどの手法	
	温かい言語環境で人権が尊重される集団づくりを行っている	
	黒板やその周辺には、ポスターやお便りなどを貼らず、授業に関わる情報を必要に応じて掲示している	
	共有で使う物の置き方や場所を決めている	
	活動の手順や役割分担を提示するなど、見通しが持てる工夫をしている	
	学級のルールや話合いの手順を具体的に決めている	
授業をつくる視点（障壁を取り除く工夫）	本時のねらいや活動を絞り、生徒に聴覚情報と視覚情報で伝えている (p.2「認知特性とは」参照)	
	指示をする際に、注目を促してから指示をしている	
	1回の指示で一つの内容を伝えている	
	「これ」「それ」「あれ」「どれ」などの抽象的な表現を避け、具体的に指示している	
	授業の最後に学習した内容を整理し確認している	
	生徒の活動に対して「いいね」「よくできたね」などの肯定的な言葉掛けをしている	
	絵や図などの視覚的な手掛かりを用意している	
	板書の文字（大きさ）、チョークの色、配置などを工夫している	
	言葉で説明するだけでなく、図示する、演じるなどの方法を用いて、理解を促す工夫をしている	
	ねらいに沿った授業の進め方や体験の内容など、授業の展開が工夫されている	
	課題解決までのプロセスに細やかな段階がある (p.4「認知処理様式とは」参照)	
教科の系統性を利用して、前の段階では理解が十分でなかったことや、再度確認を行う必要があることなどについて、復習する機会を設けている		
学んだことを別の課題に適用したり、実生活で活用したりすることができるような工夫をしている		

※ 自分の授業を振り返ったり、先生同士で協議したりする際に活用してください